

レジメン名		Pola+BR 療法 (1コース目/リツキシマブ別日)						
対象疾患 (癌腫)		びまん性大細胞型B細胞リンパ腫						
適応分類		<input type="checkbox"/> 初発・未治療 <input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発 <input type="checkbox"/> 術後化学療法 <input type="checkbox"/> 術前化学療法 <input type="checkbox"/> 維持療法 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
No.	薬剤 (商品名)	投与量 (基準値)	投与方法	ルート	投与時間 速度	投与日 (Day●)	投与上の注意	
T L S の予防(高リスク患者) ・治療開始前日より、輸液 1500mL/24 時間 ・治療開始 1~2 日前より、フェブキソスタット 60mg/日内服を開始 ・治療開始前日より、ラスブリカーゼ 0.2mg/kg/日投与を考慮							1 コース目 投与開始前	
<b>1 コース目 Day 1</b> ★準備する輸液セット：ケモセーフロック輸液セット								
1.	コロナール錠 500mg ボララミン錠 2mg	1 錠 1 錠	内服			Day 1	前投与 内服 30 分後にリツキシマブ投与開始	
2.	生食 50mL (ルートキープ)	適宜	点滴静注	メイン	30 分	Day 1		
3.	リツキシマブ点滴静注 (リツキシマブ) 製剤規格：100mg/10mL 500mg/50mL 生食 500mL	375mg/m <sup>2</sup>  必要量で希釈して、1mg/mL の濃度に調製	点滴静注	メイン	50mL/h で開始。30 分毎に 50mL/h ずつ上げる。最高 400mL/h まで	Day 1		
4.	生食 (ルートフラッシュ) 50mL	1 本	点滴静注	メイン	30 分	Day 1		
<b>1 コース目 Day 2</b> ★準備する輸液セット：ケモセーフロック輸液セット・フィルター付き								
1.	コロナール錠 500mg	2 錠	内服			Day 2	前投与 内服 30 分後にボラツズマブ投与開始	
2.	アロキシ点滴静注パッヅ 0.75mg/50mL デキサート注 3.3mg/1mL ボララミン注 5mg/1mL	1 本 2A 1A	点滴静注	メイン	212mL/h (15 分)	Day 2	前投与 ボラツズマブの 30 分前	
3.	生食 50mL (ルートキープ)	適宜	点滴静注	メイン	15 分	Day 2		
4.	ポライビー点滴静注用 (ボラツズマブ) 製剤規格：30mg 140mg 注射用水 20mL (溶解用) 30mg バイアルあたり 1.8mL 140mg バイアルあたり 7.2mL 生食 100mL	1.8mg/kg  必要量  全量 100mL に調製	点滴静注	メイン	67mL/h (90 分)	Day 2	インラインフィルター使用  ※ポライビー投与量<72mg の場合は、全量 50mL に調製して 90 分で投与	
5.	生食 (経過観察用) 50mL	適宜	点滴静注	メイン	90 分間 (初回)	Day 2		
★ポライビー終了後、薬局へトレアキシン払出しの連絡 (備考参照)								
6.	トレアキシン点滴静注液 (ベンダムスチン) 製剤規格：100mg/4mL 生食 50mL	90mg/m <sup>2</sup>  50mL	点滴静注	メイン	330mL/h (10 分)	Day 2		
7.	生食 (ルートフラッシュ) 50mL	1 本	点滴静注	メイン	10 分	Day 2		
<b>1 コース目 Day 3</b> ★準備する輸液セット：ケモセーフロック輸液セット								
1.	デキサート注 3.3mg 生食 50mL	2A 50mL	点滴静注	メイン	208mL/h (15 分)	Day 3	前投与	
2.	トレアキシン点滴静注液 (ベンダムスチン) 製剤規格：100mg/4mL 生食 50mL	90mg/m <sup>2</sup>  50mL	点滴静注	メイン	330mL/h (10 分)	Day 3		
3.	生食 (ルートフラッシュ) 50mL	1 本	点滴静注	メイン	10 分	Day 3		

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポラツズマブ、リツキシマブの初回投与時は infusion reaction が起こりやすい。 症状が現れた時は、ただちに投与中断し、適切な処置を行う。</li> <li>・トレアキシン希釈調製後の保管・払出しについて トレアキシンは、室温で6時間以内、2-8°Cで24時間以内に投与を終了する必要がある。 1) ポライビイーを先行投与する日は、調製後のトレアキシンは薬局の保冷庫で保管する。 2) ポライビイー終了後（トレアキシン投与30分前）に看護師から連絡を受けて、薬局から払い出しをする。</li> <li>・血管外漏出時のリスク トレアキシン：炎症性抗がん剤</li> </ul>
インターバル日数 (1コース期間)	3週間
総コース数	全6コース
投与中止・延期基準 減量基準 (別紙添付可)	別添
主な副作用	<p>&lt;主な副作用&gt; 感染症、血小板減少、貧血、末梢性ニューロパチー、アレルギー反応</p> <p>&lt;注意を要する副作用&gt; 腫瘍崩壊症候群、進行性多巣性白質脳症（脳の障害）、肝機能障害</p> <p>・海外第I b/II相試験（GO29365試験）での主な副作用 好中球減少症 53.8%、血小板減少症 41.0%、下痢 33.3%、貧血 33.3%、発熱 20.5%、末梢性ニューロパチー 20.5%</p> <p>・国内第II相試験（JO40762試験[P-DRIVE試験]）での主な副作用 貧血 37.1%、悪心 31.4%、血小板減少症 25.7%、好中球減少症 25.7%、便秘 22.9%、血小板減少及び好中球減少 22.9%、倦怠感 20.0%、食欲減退 20.0%</p>
レジメン解説 エビデンス資料 (国内で承認された用法・ 用量並びに投与経路が異なる場合は必須)	<p>海外第I b/II相試験（GO29365試験）</p> <p>国内第II相試験（JO40762試験[P-DRIVE試験]）</p>